質疑と議論

諸富：九電の研究について

竹濱：燃料費で経産省でコスト検証委員会の数値を使っている。少し価格が高く反映されている。平均コストがドイツより2円高く算出されている。なぜなら、検証委員会の数値はモデルプラントを基本としている。コスト積み上げ算式。

諸富：今後、リアルタイムのデータを入れるのが良い。

諸富：2倍に増えたシナリオとは？

竹濱：九電で太陽光の設備認定14GWがすべて設置された場合を想定している。２倍モデル。いま風力が少ないが、風力をもっと増やさないといけない。太陽光だけでは、CO2の削減が少ない。これまで電力不足を想定して作られた揚水は、昼のあふれる太陽光を吸収する役割に変わる。夏は、ほぼ毎日揚水稼働する（2016年の実デーアを活用したシミュレーション）。昼間は電力が余り気味になる。九電から中国電力に出さないといけない。

内藤：LNGを止めれば？

竹濱：価格で入れるとどうしても石炭が勝つ。長期的に石炭を減らす計画や政策を入れないとメリットオーダー的に難しい。

内藤：LNGを削ったほうが自然だと思う。DR入れるよりは。

竹濱：地域間融通は、出せるだけ出している想定。メリットオーダーだと、石炭がずっと残ってしまう。

内藤：相沢さんの資料だと、石炭は実質的に安くない。

諸富：原子力は？川内原発と玄海原発が入る

竹濱：原発は今回入れていない。入れると、石炭部分を侵食する。原発1.8GW。

諸富：原発と石炭を動かして、太陽光をカットすると想定されている。

竹濱：ここでは太陽光をすべて入れているケース

内藤：松浦石炭には複数台の発電機があり、台数制御で完全に停止する選択肢もある。最後の1台だけ止めないようにする。

竹濱：1機ずつの計算になると、50の連立方程式になる

録音

松田：東電の柏崎の大送電線は？

内藤：自前の発電所は一般負担、でも再エネは自己負担。

竹濱：変電所の増設も自己負担では風力はきつい

内藤：今回の改正で、高圧は一般負担になった。

諸富：ドイツは？

竹濱：grid chargeで(a)を賄うことをEEGで規定されている

諸富：日本では電気事業法と電源線にかかる省令という定義を変えないといけない）

竹濱：お金払ったのに所有権のないのはおかしい

諸富：省令ということは、国会ではなく、経産省の中だけで決めている

竹濱：電源線の定義（b+a）を（a）に変えないといけない

内藤：託送料金は、消費者負担になっている

李：洋上風力発電も？

内藤：フランスとイギリスが一部負担があるが、あとは一般負担。ノルウェーは発電負担の割合が高いが、それ以外は一般負担が基本原則。

李：山の奥で小型風力を作った場合は？

内藤：電源線は自己負担。基本的に直線の距離、電圧で無理を言ってはいけないなどの接続ルールがある。近いところに配電変電があるのに、1次変電を持ってくるように大手電力会社が命じるのは違法。

竹濱：すべてのコストを合わせて、国民経済的に最も安いものを選ぶのが、経済合理性と定義づけている。日本は電力事業者ありき。

諸富：発電負担はイギリス27%、テキサス0%、メキシコブラジル100%。おおむね再エネに熱心な国は自己負担は少ない。

内藤：

竹濱：変電所の増設は40年間の減価償却で計算して、それを価格に反映される。

内藤：日本は接続しようとした人に負担が大きいので、逆インセンティブになる。

松田：エネルギー大転換という哲学があるから？

内藤：公平に、透明に、エネルギー大転換の社会合意ができている